

平成21年度 第十三回

外国人留学生

奨学金受賞者紹介



熊本大学大学院医学教育部  
博士課程4年(中国)

蔣 青

こんにちは、私はジャンソンと申します。この度、肥後医育振興会の奨学金を頂き、深くお礼を申し上げます。私は二〇〇六年四月に熊本大学大学院医学教育部に入学して、今は博士課程四年生として、発生医学研究センターの西中村隆一先生の研究室で腎臓発生に関することを勉強しております。

私は腎臓前駆細胞群で *sal1* を条件的にノックアウトしたり、過剰発現させたりして、腎臓前駆細胞の増殖や分化などの機構を解明しています。腎臓前駆細胞とは腎臓の各種類の細胞に分化する能力を持つ幹細胞です。腎臓前駆細胞のほかに細胞へ分化するメカニズムを解明することによって、腎臓再生を望みます。最初段階としては、*sal1* がどのように腎臓前駆細胞の増殖や分化を制御するの解明しなければなりません。この目標を達成するために、*sal1* を条件的にノックアウトマウスと、過剰発現マウスを作る必要があります。今の研究状況はこの二種類のマウスを完成しており、次の研究へ順調に進んでいます。



熊本大学大学院医学教育部  
博士課程4年(中国)

張 三 兵

私は中国からの留学生で、現在博士課程の四

年生です。このたびは、平成二十一年度肥後医育振興会医学国際交流助成金の奨学生に選ばれたことを、肥後医育振興会の皆様に深く感謝申し上げます。

私の研究テーマは、発生過程海馬での *Draxin* と呼ぶ分泌分子の機能解析です。*Draxin* は新しく発見された分泌因子で、ニワトリ脊髄交連神経に対し反発性のガイダンス分子として働きます。*Draxin* はマウスの脳の海馬に発現しています。*Draxin* のサイズを *Draxin-KO* マウスと野生型 (*WT*) で比較したところ、*Draxin-KO* の海馬では、細胞死を起こしている細胞が多く観察されました。これから結果から、*Draxin* は海馬形成に重要な役割をしていることが明らかとなりました。



熊本大学大学院薬学教育部  
博士後期課程2年(大韓民国)

吳 英 先

今回、平成二十一年度肥後医育振興会奨学金をいただき、平成二十一年から二〇〇六年まで韓国の製薬会社の研究室で働いて、二〇〇七年に韓国の製薬会社で現在薬学教育部の分子薬化学研究室で研究をしている博士2年次、オヨンソンと申します。私の研究のテーマは新しいキラルな触媒の開発と不斉反応の開発です。自然界に存在する有機化合物の大部分は光学異性体の片方だけが存在しますが、天然物を人工的に合成しようとすると左側型、右側型が半分ずつ作られます。このとき問題は、右側型が半分ずつ作られる場合、一方は願う機能を発揮するが他方は効果がない、あるいは全く違った作用をもたらすという点にあります。また現在アメリカのFDAの政策決定によって単一異性体として販売されるキラル医薬品の数が近年急激に増加しています。そのため光学純粋な医薬品を開発するための不斉触媒反応の開発は極めて重要であります。

財団からのお願い

財団の活動充実と発展のために  
維持会員の更新と新規入会を  
お願いいたします

平成二十二年加入者は未だ四一九名  
目標は六〇〇名

常任理事(財務担当) 興 昭 博次

熊本県の医学教育は、日本で最も伝統ある歴史をもち、その歴史において北里柴三郎をはじめとして多くの医師、医学者、教育者が育ち、国内外で大きな貢献をしてきました。その背景のもとに、肥後医育振興会は、未来の医療を担う人材を多く育成することを理念として平成八年に設立されましたが、今年から新たに公益法人として再スタートして、医療人育成、県民の健康増進、地域医療・医学の振興、医学研究助成事業及び医学国際交流支援事業(外国人留学生奨学金)の助成対象者の拡充、生活情報紙「あれんじ」の医学・医療関連記事の執筆及び監修など、熊本から全国へ、世界へ飛躍する医療人の育成と医学の発信を行うために活動しています。

昨今、景気の低迷が続く、本財団にとっても厳しい時代が続いています。また、会員の皆様も、医療崩壊、医療費の削減等の社会情勢により厳しい経済状況と労働環境で努力されていることと拝察いたします。このような厳しい環境の中でも、私たちは、常に最高の医療を提供する責務があり、また、医師の育成と医学の発展に努めなければなりません。この状況にもかかわらず、本会の会員数は十九年度四四〇名、二十年度四七九名、二十一年度五六九名と改善してきて、援助を継続いただいていることに心より感謝申し上げます。

さて、この維持会員制度は三年ごとの更新制度になっており、今年度はその更新の年であります。しかし、予算上の目標は六〇〇名としていますが、十月一日現在の加入者数はまだ四五五名であります。資金の点からもまだまだ目標には遠く及びません。皆様は次世代の医療を担う人材のために医育助成がいただけましたら、本財団が安定した活動を継続できるものと信じています。

つきましては、維持会員の先生方には、何とぞ引き続き平成二十二年より平成二十四年度の維持会員としてご更新いただきまして、本財団へのご協力ご支援をお願い申し上げます。また、新維持会員として本財団の活動にご参加をお願いできる先生方には、本財団を育てていただきありがとうございます。

本学若手の医師諸氏の会員申込みが極めて少なく、今後の本財団発展のためにも、是非お力添えをいただきたく切にお願い申し上げます。若手医師にとつて、年会費五千元は大変な負担とは存じますが、医学部学生、研修医にも肥後医育振興会は援助をしておりますので、本会をおして若手が若手を育成することにも貢献いただけたら有り難いところです。

維持会員には、いつでも、どなた様でも申し込みいただけます。個人年会費一口五千元、団体一口三万円です。会員入会申込書は、本財団のホームページからダウンロードされるか、左記までご連絡をお願い申し上げます。

千八六〇一〇八一

熊本市本荘二二一 肥後医育記念館内

公益財団法人 肥後医育振興会

TEL&FAX 096-373-5425

ホームページ <http://www.119higo.com/>

E-mail: [119higo@fc.kuh.kumamoto-u.ac.jp](mailto:119higo@fc.kuh.kumamoto-u.ac.jp)